

令和7年度



学 校 要 覧



埼玉大学教育学部附属特別支援学校

〒331-0823 さいたま市北区日進町2-480

TEL 048(663)6803

FAX 048(666)3670

<https://fuyou.saitama-u.ac.jp/>



校歌

(昭和51年11月20日制定)

作詞 井上敏夫

作曲 土肥 泰

♩ = 88 明るく元気よく

mf

1. し い の き ば や し の し い の み は
2. に し に は は る か に ふ じ の や ま
3. む さ し の だ い ち の こ の お か に

め を だ し は を だ し の び て い く
ま し ろ く け だ か く そ び え て る
あ め か ぜ め ー げ ず ま な ぶ と も

mp *cresc.* *f*

お お ぞ ら さ し て す く す く と ぼ ー
き お う は た か く む ね は っ て と ー
み ん な わ に な れ わ に な っ て に ほ

く も も わ た し も の び て い く
も に の み ら い を す す も う よ
ん の

- 一、 しいの木林の しいの実は
芽を出し 葉を出し 伸びてゆく
大空さして すくすくと
ぼくもわたしも のびていく
- 二、 西にははるかに 富士の山
ましろく けだかく そびえてる
希望は高く 胸はつて
ともに手を取り 進もうよ
- 三、 武蔵野台地の この丘に
あめかぜめげず 学ぶ友
みんな輪になれ 輪になつて
日本の未来を きずこうよ

校章の由来

埼玉県師範学校附属小学校の鳳凰と埼玉県女子師範学校附属小学校の八咫鑑を取り入れてデザインされた。附属小学校と附属中学校と共通のデザインであり、本校の校章には「学」の字が入っている。



目 次

校歌 校章	
I 本校の目的と性格	2
II 本校の沿革	2
1 本校発足までの歩み	
2 本校の歩み	
III 児童生徒の状況	3
1 学部別・学級別の児童生徒数	
2 通学の状況	
3 高等部卒業生の進路	
IV 教育課程	4
1 学校教育目標	
2 学部教育目標	
3 目指す子ども像とつきたい力	
4 教育課程の基本的な考え方	
5 各指導形態において主に扱う教科等の指導内容	
6 日課表	
V 学校経営方針	10
1 今年度の学校経営上の重点・努力点	
2 年間行事計画	
VI 校務組織	11
1 教職員等	
2 校務分掌	
VII 研究	13
1 研究活動の歩み	
2 本年度の研究活動	
VIII 教育実習	14
1 教育実習	
2 介護等体験実習	
IX PTA 活動	14
1 PTA の目的	
2 PTA の組織及び主な事業	
X 入学選考	15
1 入学選考の日程について	
2 入学希望者の相談	
XI 施設等	15
1 交通案内図	
2 校舎配置図	
3 日常生活訓練棟「しいのきハウス」	
4 教育学部附属特別支援教育臨床研究センター	

I 本校の目的と性格

本校は、学校教育法に基づき、知的障害のある児童生徒に対して、心身の発達に応じて、普通教育を施すことを目的とする特別支援学校であり、小学部・中学部・高等部からなる。

また、埼玉大学教育学部の附属学校であることから、次のような性格をもつ。

ア 教育学部の計画に基づき、学生の実習及び大学院実地研究の実施にあたる。

イ 教育に関する理論、及び実践についての研究・実証を行う。

ウ 県内の特別支援教育関係の諸活動に協力する。

II 本校の沿革

1 本校発足までの歩み

昭和39年 9 月 埼玉大学教育学部附属小学校に知的障害児の特殊学級を開設

昭和41年 4 月 埼玉大学教育学部附属中学校に知的障害児の特殊学級を開設

2 本校の歩み

昭和47年 4 月 特殊学級を改組し、埼玉大学教育学部附属養護学校を創立（校長、教頭、養護教諭、教諭 9 名）
（小学部 3 学級、中学部 3 学級）
初代校長に先崎正次郎教授就任

昭和48年 4 月 高等部 1 学級新設、教諭 2 名増

昭和49年 4 月 高等部 1 学級増設、教諭 2 名増

昭和49年 8 月 大宮市日進町に新校舎が完成し、8 月 5 日に移転

昭和50年 2 月 校舎落成式典を挙行政

昭和50年 4 月 第 2 代校長に中山正民教授就任

高等部 1 学級増設、教諭 3 名増

昭和51年 4 月 高等部卒業後の補習教室「しいのみ学級」を設置

昭和51年11月 校歌を制定（作詞 井上敏夫氏
作曲 土肥 泰氏）

昭和52年 4 月 教諭 1 名増

昭和53年 4 月 第 3 代校長に福島正義教授就任

昭和56年 4 月 第 4 代校長に日沼晃治教授就任

昭和56年11月 国際障害者年及び創立10周年記念行事「しいの木まつり」を開催

昭和57年 4 月 教諭 1 名増

昭和59年 4 月 第 5 代校長に岩崎次男教授就任

昭和60年 4 月 教諭 1 名増 花壇の設置

昭和62年 4 月 第 6 代校長に勝又欽一教授就任

平成元年 4 月 教諭 1 名増

平成 2 年 4 月 第 7 代校長に小貫徹教授就任

平成 4 年 4 月 教諭 1 名増

平成 4 年 5 月 創立20周年記念式典を挙行政、時計塔の設置、記念誌の発行

平成 5 年 4 月 第 8 代校長に藤枝静正教授就任

平成 8 年 4 月 第 9 代校長に森田武教授就任

平成 8 年 7 月 川田木工跡地を取得（808㎡）

平成10年 3 月 日常生活訓練棟「しいのきハウス」の完成（461㎡）

平成10年 5 月 日常生活訓練棟「しいのきハウス」の落成式を挙行政

平成11年 4 月 第10代校長に藤巻公裕教授就任
教諭 1 名増

平成13年 4 月 学校評議員制度開始

平成14年 4 月 第11代校長に白井宏明教授就任

平成15年 2 月 創立30周年記念式典を挙行政、タイムカプセルの設置、記念誌の発行

平成15年 5 月 創立30周年記念同窓会を開催

平成16年 4 月 教諭 1 名増

平成16年 4 月 発達支援相談室「しいのみ」開設

平成17年 4 月 第12代校長に榎原弘二郎教授就任

平成19年 4 月 学校名を埼玉大学教育学部附属特別支援学校に変更
B棟耐震補強改修工事

平成20年 4 月 第13代校長に細渕富夫教授就任

平成21年 4 月 発達支援相談室「しいのみ」の名称を特別支援教育臨床研究センター「しいのみ」に変更

平成22年 4 月 管理棟、作業棟トイレ改修工事

平成23年 4 月 第14代校長に馬場久志教授就任

平成24年10月 創立40周年記念式典を挙行政、公式キャラクター「ハッピーくん」認定、記念誌の発行

平成26年 4 月 第15代校長に尾崎啓子教授就任

平成28年 4 月 「しいのみ」の組織改編により、教育学部附属特別支援教育臨床研究センターを本校に併設

平成29年 4 月 第16代校長に戸部秀之教授就任

令和 2 年 4 月 第17代校長に吉川はる奈教授就任

令和 4 年 3 月 B棟校舎大規模改修工事完了

令和 4 年10月 開校50周年記念式典を挙行政、タイムカプセルの開封、記念誌の発行

令和 5 年 3 月 C棟校舎大規模改修工事完了

令和 5 年 4 月 第18代校長に石川泰成教授就任

令和 6 年 3 月 A棟校舎大規模改修工事完了

Ⅲ 児童生徒の状況

1 学部別・学級別の児童生徒数

(令和7年5月1日現在)

学 部		性	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計		
小 学 部	1 組	男	2	3					5	6	17
		女	1	0					1		
	2 組	男			1	2			3	5	
		女			1	1			2		
	3 組	男					3	3	6	6	
		女					0	0	0		
中 学 部		男	2	5	4				11	18	
		女	4	1	2				7		
高 等 部		男	5	6	3				14	23	
		女	4	2	3				9		

2 通学の状況

本校には、通学所要時間が片道60分以内で、公共の交通機関による通学が可能な児童・生徒が在籍している。なお、スクールバスは運行していない。

市 町 名	さいたま市	川越市	川口市	戸田市	上尾市	鶴ヶ島市	桶川市	蕨市	合 計
小 学 部	12	1	0	2	0	0	0	2	17
中 学 部	13	2	0	1	2	0	0	0	18
高 等 部	11	4	4	0	3	1	0	0	23
合 計	36	7	4	3	5	1	0	2	58

3 高等部卒業生の進路

卒業年度	生徒数			高 等 部 卒 業 時 の 進 路								
	男	女	計	一般就労	就労移行支援	就労継続支援 A 型	就労継続支援 B 型	自立訓練(生活訓練)	生活介護	地域活動支援センター	進学	在家庭
平成 26 年	5	3	8	0	3	0	3	0	1	1	0	0
平成 27 年	5	3	8	3	2	0	2	0	1	0	0	0
平成 28 年	6	2	8	1	2	0	4	0	1	0	0	0
平成 29 年	4	4	8	2	2	0	2	1	1	0	0	0
平成 30 年	8	0	8	1	3	1	1	0	2	0	0	0
令和元年	5	3	8	3	1	0	1	0	3	0	0	0
令和 2 年	3	5	8	2	2	0	1	1	1	0	1	0
令和 3 年	5	3	8	2	1	0	3	0	2	0	0	0
令和 4 年	5	3	8	2	2	0	3	0	1	0	0	0
令和 5 年	7	1	8	2	0	0	4	1	0	1	0	0
令和 6 年	6	2	8	1	1	0	6	0	0	0	0	0

Ⅳ 教 育 課 程

1 学校教育目標

本校は、保護者とともに知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざし、生活に即した学習や体験的な学習を通し、一人一人のもてる力を最大限に発現させることによって、社会の主体としてたくましく生活できる子どもを育てるために、下記の通り学校教育目標を設定する。

**自己実現を目指して物事に積極的に取り組み、
生き生きと社会生活のできる児童生徒を育成する**

＜学校教育目標の設定にあたって＞

自己実現を「持てる力を最大限に発揮し、さらに高めようとしながら生き生きと生活する姿」と捉え、児童生徒の夢、将来像を大切に、意欲を育む教育を実践しながら、かけがえのない人生を形成する力を育むことを目指す。

「物事に積極的に取り組む」には、主体的、積極的にあきらめずに取り組む姿が反映されている。また、「生き生きと社会生活できる」には、心身共に健康で、様々なかかわりを大切にしながら生活するという意味を込めている。

社会生活のできる児童生徒の育成にあたり、基本的生活習慣や生活技能の習得に加え、社会のきまりやマナーを理解して行動すること、周囲の人と協力するなど人とのかかわりや社会性を含めた学習をすることで、一人一人の自立と社会参加を目指していく。

〈将来像〉

児童生徒一人一人の将来の姿を考えることで、将来を見据え、自立と社会参加を目指した教育を行う。

一人一人の児童生徒が、自分の力を最大限発揮して、家庭、職場、余暇、それぞれの生活の場において、生き生きと生活し、「自己実現している 23～25 歳の将来の姿」を、児童生徒本人、保護者、教員が共有することで、学校教育目標の実現を目指していく。

2 学部教育目標

小学部

**集団の中で生徒一人一人に応じた適切な教育を行い、
豊かな体験の積み重ねの中で、生徒一人一人が自分の力を発揮し、
生活を自らの力で上げようとする生徒を育成する**

小学部の児童は生活年齢による経験の少なさから興味関心の幅が狭い傾向がみられる。よって、教員は、児童の障害や発達の実態、興味関心を的確に把握し、様々な物事にすすんで取り組めるような教育活動を展開することが重要である。そのため、意図的に生活に即した学習や体験的な学習を組み込み、児童がその興味関心に基づきながら、伸び伸びと遊んだり、学習や運動に生き生きと取り組んだりすることができるようにしていく。

また、小学部では、発達上、生活上の課題を改善・克服することのみならず、児童の好きなことや得意なことを活かしながら、「よさ」を伸ばしていく視点も大切にしていく。それは、小学部の児童が、もてる力を最大限に発揮し、自己実現する上で必要な要素である。

様々な興味関心のもてる学習活動を展開する中で、物事にすすんで取り組む意欲、身辺自立に向けた力、心身ともに健康な生活のできる習慣や力、周囲の人と共に生活していくための基礎的な態度や技能、それらを支える認知やコミュニケーションの力の育成をめざしていく。さらに、成功経験を積み重ねて自己肯定感を高め、将来を豊かに生きる力につなげていく。

中学部

一人一人の実態に応じた生活に即した学習や体験的な学習を行い、
さまざまな活動に興味関心をもって生き生きと取り組む生徒を育成する

小学校・小学部での6年間の学びを経た生徒は、中学部に進学する頃には、興味や関心の幅が広がり、自分の考えや意思を表現する力が育ってきている。また、これまでに多様な集団活動を経験していることから、中学部の3年間は、自ら興味を広げ、意欲的に取り組む姿が期待できる時期である。

中学部では、教員や友人に限らず、学級や学部といった集団の中でも、自分の力を発揮できるようになる。また、学校外での豊かな体験を重ねることにより、関心の幅がさらに広がり、積極的な姿勢が育まれることも期待される。

生徒によって集団との関わり方は異なるが、仲間と共に体験を重ね、集団の中で力を発揮することを通して、自らの生活を上げていくことが、中学部教育の基本であると考え。その考えに基づき、上記の学部目標を設定した。

高等部

中学校（部）までに身につけた力を基に、
生徒一人一人の卒業後の家庭・職場・余暇の場における生活を見据え、
個性を活かして社会の中で主体的に生活できる生徒を育成する

令和4年度より施行された特別支援学校高等部学習指導要領では、学校の教育活動を進めるに当たって生徒の生きる力を育むことを目指すものの1つに、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。」としている。

社会に出る直前の段階にあたる高等部という特徴、学習指導要領、社会の現状、学校教育目標を踏まえ、高等部では上記の教育目標を設定し、個々の障害の程度に応じながら目標の達成をめざすことで、生きる力の育成に取り組む。

3 目指す子ども像とつきたい力

「主体的に 対話的に 深く学ぶ子」

小学部	がんばる子 主体的に生活にかかわる力	なかよくする子 対話的に生活にかかわる力	ひろげる子 学びを生活に活かす力
中学部	自ら取り組む生徒 主体的に学習に向かう力	ともに学ぶ生徒 対話的に学習する力	ひろげ、挑む生徒 学びを拡げ、深める力
高等部	自ら学ぶ生徒 主体的に学びに向き合う力	社会性のある生徒 社会の中で活かす力	挑み、磨く生徒 自分らしい生き方を創る力

4 教育課程の基本的な考え方

知的障害のある児童生徒の学習上の特性として、学習によって得た知識や技能が授業場面や他の生活の場で応用されにくいことや抽象的思考の苦手さがある。また、成功体験の少なさ等から主体的に取り組む意欲が十分に育っていない場合がある。

このような児童生徒の学習上の特性をふまえ、本校では「教科等別の指導」のほか、特別支援学校学習指導要領に示された知的障害特別支援学校各教科等の目標・内容を、学校教育法施行規則や学習指導要領に則った指導形態である「各教科等を合わせた指導」に再編成して指導している。これは本校において「総合学習」あるいは「生活総合学習」として受け継がれてきた考え方に基づいたものである。

本校ではこの「各教科等を合わせた指導」の特長である児童生徒の生活（学校生活や社会生活）に結び付いた具体的で体験的な学習活動を通して、「自己実現を目指して物事に積極的に取り組み、生き生きと社会生活のできる児童生徒を育成する」ことを目指した教育課程を編成している。

5 各指導形態において主に扱う教科等の指導内容

各教科等の指導内容は、「各教科等を合わせた指導」や「各教科等別の指導」それぞれの指導形態の特長を生かして再編成し、学校生活の文脈の中で各教科等の内容を効果的に学習することができるように関連性をもたせて指導している。

各指導形態において主に扱う教科等は次の表のとおりであるが、児童生徒の興味関心や学習単元の展開等により効果的に指導できるよう関連をもたせて柔軟に取り扱っている。

【小学部】

各教科等	生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育	(外国語)	道徳	特別活動	自立活動
------	----	----	----	----	------	----	-------	----	------	------

↓ 指導内容を各指導形態に再編成

各教科等の学習状況を評価↑

		授業名	主に扱う教科等
指導の形態	各教科等を 合わせた指導	日常生活の指導 ・荷物整理・着替え・係活動 ・朝の会・給食・歯磨き・帰りの会 ・遊び	生活 国語 算数 特別活動（学級活動）等
		遊びの指導	生活 体育 等
		生活単元学習	生活 国語 算数 等広範囲 特別活動
	教科等別の指導	音楽／合同音楽	音楽
		リズム運動 体育／合同体育	体育
		図工	図画工作
		おべんきょうタイム	国語 算数 自立活動
		全校朝会／学部朝会	特別活動
学校生活全体を通じて		道徳 自立活動	

【中学部】

各教科等

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	職業・家庭	(外国語)	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	自立活動
----	----	----	----	----	----	------	-------	-------	----	-----------	------	------

↓指導内容を各指導形態に再編成

各教科等の学習状況を評価↑

指導の形態

		授業名	主に扱う教科等
各教科等を 合わせた指導	日常生活の指導	日常生活の指導 ・着替え・家事・朝の会・帰りの会 ・給食・歯磨き・そうじ	職業・家庭 特別活動（学級活動）
	生活単元学習	生活	国語 社会 数学 理科 美術 職業・家庭 等 特別活動 道徳
	作業学習	作業	職業・家庭 社会 等
教科等別の指導		音楽	音楽
		体育 マラソン／サーキット	保健体育
		保健	保健体育
		がんばりタイム	国語 数学 自立活動
		全校朝会／朝会	特別活動 道徳
		中学部タイム	総合的な学習の時間
		委員会	特別活動
学校生活全体を通じて			道徳 自立活動

【高等部】

各教科等

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	職業	家庭	(外国語)	(情報)	道徳	総合的な探究の時間	特別活動	自立活動
----	----	----	----	----	----	------	----	----	-------	------	----	-----------	------	------

↓指導内容を各指導形態に再編成

各教科等の学習状況を評価↑

指導の形態

		授業名	主に扱う教科等
各教科等を 合わせた指導	日常生活の指導	日常生活の指導 ・着替え・係活動 ・清掃・給食・歯磨き	家庭 保健体育 等
	生活単元学習	生活	国語 社会 職業 家庭 道徳 自立活動 等
		グループ	国語 社会 数学 理科 美術 保健体育 職業 家庭 外国語 情報 道徳 等
	作業学習	作業	数学 美術 職業 家庭 等
教科等別の指導		音楽	音楽
		体育	保健体育
		生活（個別学習）	国語 数学 自立活動 等
		全校朝会	特別活動
		総合	総合的な探究の時間
		委員会	特別活動
学校生活全体を通じて			道徳 自立活動

6 日 課 表

小学部 1 組日課表

時限	時間	曜日	月	火	水	木	金
	9 : 10		登 校 (8 : 50 - 9 : 10)				
			日常生活の指導 (荷物整理・着替え・係活動・遊び・朝の会)				
1	9 : 45		全 校 朝 会	リズム運動／合同体育			合同音楽
	10 : 15		日常生活の指導 (遊び)				
2	10 : 35		学 部 朝 会	生活／音楽／図工／体育 ／おべんきょうタイム			
	11 : 15		日常生活の指導 (遊び)				
3	11 : 25		生活／音楽／図工／体育／おべんきょうタイム				
	12 : 05		給 食				
	12 : 55		日常生活の指導 (歯磨き・着替え・帰りの支度・遊び・帰りの会)				
	13 : 45		下 校				

【学習集団】

①月曜 1 校時「全校朝会」……全校合同

③月曜 2 校時「学部朝会」……小学部合同

②火～金曜 1 校時……………小学部合同

④その他……………学級

小学部 2・3 組日課表

時限		曜日	月	火	水	木	金
	9 : 10		登 校 (8 : 50 - 9 : 10)				
			日常生活の指導 (荷物整理・着替え・係活動・朝の課題・遊び・朝の会)				
1	9 : 45		全 校 朝 会	リズム運動／合同体育			合同音楽
	10 : 15		日常生活の指導 (遊び)				
	10 : 35						
2			学 部 朝 会	生活／音楽／図工／体育			
	11 : 15		日常生活の指導 (遊び)				
	11 : 25						
3			生活／音楽／図工／体育				
	12 : 05						
	12 : 55		給 食				
			日常生活の指導	日常生活の指導 (歯磨き・清掃・遊び)			日常生活の指導
4	13 : 45		下 校	(13 : 50 ～) おべんきょうタイム			下 校
	14 : 30			日常生活の指導 (着替え・帰りの支度・帰りの会)			
	15 : 00			下 校			

【学習集団】

①～④……………1 組と同じ

⑤ 4 校時「おべんきょうタイム」……課題別グループ

中学部日課表

時限	時間	曜日	月	火	水	木	金
1	9：10		登 校				
	9：30		身辺処理・家事 朝 の 会				
				移 動 ・ 準 備			
	9：40	体育館そうじ	朝 会				
		全 校 朝 会	マ ラ ソ ン	サーキット	マ ラ ソ ン	サーキット	
	10：20	休み時間（移動、準備）					
	10：30	作 業	がんばりタイム	がんばりタイム	がんばりタイム	作 業	
	3		生 活	生 活	生 活		
	12：00	給 食					
	12：50	身辺処理・家事・昼休み（～13：15 移動、準備）					
4	13：15	保健／生活(学部・学級) ／がんばりタイム	体 育	中学部タイム	音 楽	委 員 会 （～13：50）	
	13：45	身辺処理・家事				身辺処理・家事	
	14：05	帰 り の 会				帰 り の 会	
	14：20	下 校	そ う じ				下 校
	14：30		身辺処理・家事・帰りの会				
	15：10		下 校				
	15：20						

【学習の進め方と学習集団】

- ①全校朝会……………小学部・中学部・高等部合同
 ②身辺処理・家事……………学年
 ③がんばりタイム・生活……………学年
 ④作 業……………紙すき・農園芸の2作業班（縦割り）
 ⑤朝会・運動(マラソン・サーキット)……………全学年合同
 ⑥体育・音楽……………全学年合同
 ⑦中学部タイム……………総合的な学習の時間
 4グループにわかれて活動
 基本的に生徒が選択
- ⑧中学部合同……………全学年合同
 ⑨委員会……………中学部・高等部合同で4委員会
 （代表、保健、放送、飼育園芸）
 中学部のみで1委員会（集会）
 を編成
 ＊がんばりタイムと生活の休み時間（火～木）は、適宜学
 級ごとにとる

高等部日課表

時限	時間	曜日	月	火	水	木	金
1	9:10		登 校（着替え）				
	9:15		着 替 え ・ 係 活 動				
	9:30		ロングホームルーム	清 掃	ホ ー ム ル ー ム	移 動	生 活 (個別学習)
	9:40		全 校 朝 会	体 育	移 動	移 動	移 動
	9:45		全 校 朝 会	体 育	移 動	移 動	移 動
	10:25		全 校 朝 会	体 育	移 動	移 動	移 動
	10:35		生 活	グ ル ー プ	グ ル ー プ	グ ル ー プ	生 活 (個別学習)
	11:15		生 活	グ ル ー プ	グ ル ー プ	グ ル ー プ	生 活 (個別学習)
	11:25		生 活	グ ル ー プ	グ ル ー プ	グ ル ー プ	生 活 (個別学習)
	12:05		給 食 ・ 昼 休 み				
2	13:15		グ ル ー プ	作 業	作 業	作 業	委 員 会 (～13:50)
	13:55		着替え・係活動	作 業	作 業	作 業	着替え・係活動
	14:05		ホームルーム	作 業	作 業	作 業	ホームルーム
	14:15		移 動	作 業	作 業	作 業	移 動
	14:20		下 校	作 業	作 業	作 業	下 校
3	14:45		着 替 え ・ 係 活 動	ホ ー ム ル ー ム	ホ ー ム ル ー ム	ホ ー ム ル ー ム	着 替 え ・ 係 活 動
	15:05		ホ ー ム ル ー ム	ホ ー ム ル ー ム	ホ ー ム ル ー ム	ホ ー ム ル ー ム	ホ ー ム ル ー ム
	15:15		移 動	移 動	移 動	移 動	移 動
	15:20		下 校	下 校	下 校	下 校	下 校
	15:30		下 校	下 校	下 校	下 校	下 校

【学習の進め方と学習集団】

- ①全校朝会……………小学部・中学部・高等部合同
 ②ホームルーム、係活動……………学年
 ③生 活……………学年、全学年合同
 ④グループ……………課題別4グループ（縦割り）
 ⑤作 業……………手工芸・メンテナンス・コーヒーの3作業班（縦割り）
 ⑥体育・音楽……………全学年合同
 ⑦委員会……………中学部・高等部合同で4委員会（代表、保健、放送、飼育園芸）、
 高等部のみで1委員会（整美）を編成
 ⑧総合的な探究の時間……………全学年合同適宜設定する

V 学校経営方針

1 令和7年度の重点事項

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① 自立と社会参加に向けた学習指導の充実 | 【教育支援の充実】 |
| ② 安全で安心、効果的な教育環境づくり | 【教育保障のための環境整備】 |
| ③ 各教員の専門的指導力の向上 | 【指導実践力の向上】 |
| ④ 保護者・地域と連携した特別支援教育の推進 | 【特別支援教育の推進】 |
| ⑤ 働きやすさの実現 | 【教員の働き方改革】 |
| ⑥ 教育プログラムの開発と教育・研究活動の発信 | 【大学附属学校園の使命】 |

重点事項	目標	具体的内容
①自立と社会参加に向けた学習指導の充実	一人一人の児童生徒が <u>主体的、対話的に学び、学びを生活に活かす力を身につける</u> 学習指導を展開する。	○ 児童生徒一人一人が「確かな学び」を育むことのできる学習活動、指導支援を提供する。 ○ 「めざす子ども像」の実現に向けて、各学部教育課程を整理するとともに、個別の指導計画、授業計画に反映する
②安全で安心、効果的な教育環境づくり	安全に安心してもてる力を発揮できるよう、 <u>人権と多様性を尊重した教育環境を整える</u>	○ 罰や強要につながらない指導支援を行う。 ○ 事故、怪我、感染症等を予防する環境の構造化を図る。 ○ 児童生徒が自主的な行動がとれるようになる安全教育、人権教育を計画する。
③各教員の専門的指導力の向上	各教員が学習指導や特別支援教育に関する <u>専門性を高める</u> 。	○ 校外の研修等への参加や外部指導者を招聘し各教員の研究を推進する。 ○ 教員同士が専門的技量を高めあう学校研究を推進する。
④保護者・地域と連携した特別支援教育の推進	児童生徒の「 <u>確かな学び</u> 」を育み、 <u>地域社会の障害者や特別支援教育への理解を推進する</u> 。	○ 地域の環境（様々な施設等と人々）を活用した実際の体験的な学習活動を充実する。 ○ 保護者の学習プログラムを継続実施する。
⑤働きやすさの実現	<u>働きやすい職場づくり</u> をすすめる。	○ 会議、打合せの目的を効率的に達成する方法を工夫する。 ○ 情報共有等のコミュニケーションの方法を工夫する。 ○ 係や担当者の業務負担を軽減するよう文書フォルダ等を有効活用する。
※ 埼玉大学中期目標中期計画との関連		
⑥教育プログラムの開発と教育・研究活動の発信	・「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくり教育プログラムをまとめ、中間報告をする。 ・研究協議会、公開授業研究会の参加者満足度80%を達成する。	○ 6つの柱「①「性」の多様性、②障害者・高齢者、③異なる文化や言語、④生命の多様性、⑤多様な職業、⑥貧困・経済的格差」を視野に入れた教育プログラムの実践報告をまとめる。 ○ 本校の教育活動、研究活動を積極的に発信する研究協議会（公開授業研究会）を実施し、アンケートをとる。

2 年間行事計画

期・月	学 校 行 事	小 学 部 行 事	中 学 部 行 事	高 等 部 行 事	教 育 実 習 関 係
一 学 期	4	・始業式 ・入学式 ・家庭訪問 ・離任式		・学部交流会 ・体力テスト	・新入生歓迎会
	5				
	6	・運動会 ・開校記念日 ・学校公開	・宿泊学習 ・附属小との交流会	・宿泊学習	・前期現場実習 ・基礎実習
	7	・終業式		・林間学校（秩父）	・宿泊学習
	8				・応用実習Ⅰ
二 学 期	9	・始業式		・修学旅行（高3） ・校外宿泊学習（高1・2）	
	10		・修学旅行（小3組） ・宿泊学習	・宿泊学習 ・修学旅行（中3）	・後期現場実習 ・介護等体験
	11	・入学選考（小・中・高）		・マラソン記録会	
	12	・研究協議会 ・学校公開 ・終業式	・附属小との交流会	・校内実習（中3）	
三 学 期	1	・始業式	・附属小との交流会		・応用実習Ⅱ
	2	・学習発表会			
	3	・卒業式 ・修了式	・遠足 ・6年生とのおわかれ会	・中3卒業旅行 ・3年生を送る会	・高3卒業旅行 ・3年生を送る会

Ⅵ 校 務 組 織

1 教 職 員 等

部	職 名	氏 名
小 学 部	校 長	石 川 泰 成
	副校長	柳 澤 真 美
	主 事	大 崎 由 香 里
	1 組担任	加 門 直 也
		須 田 淳
		三 浦 光 里
	2 組担任	佐 藤 孝
		宮 川 千 砂 子
	3 組担任	荒 木 魁 斗
		吉 野 時 緒
	研究主任	木 皿 優
	主 事	谷 内 田 怜
	1 年担任	佐 藤 賢
		福 谷 ち づ る
中 学 部	2 年担任	野 口 千 慧
		長 谷 川 秀 丸
	3 年担任	鈴 木 健 太
		福 士 夏 実
	相談支援主任	柳 瀬 貴 之
	養護教諭	石 塚 里 沙
高 等 部	主 事	関 根 貴 博
	1 年担任	佐 藤 優 悟
		平 田 祐 也
	2 年担任	鈴 木 隆 生
		渡 部 真 由 子
	3 年担任	峯 岸 誠
		山 下 倫 大
	学部付	外 山 小 織
	教務主任	丸 山 碧
	進路指導主事	茂 木 絢 美

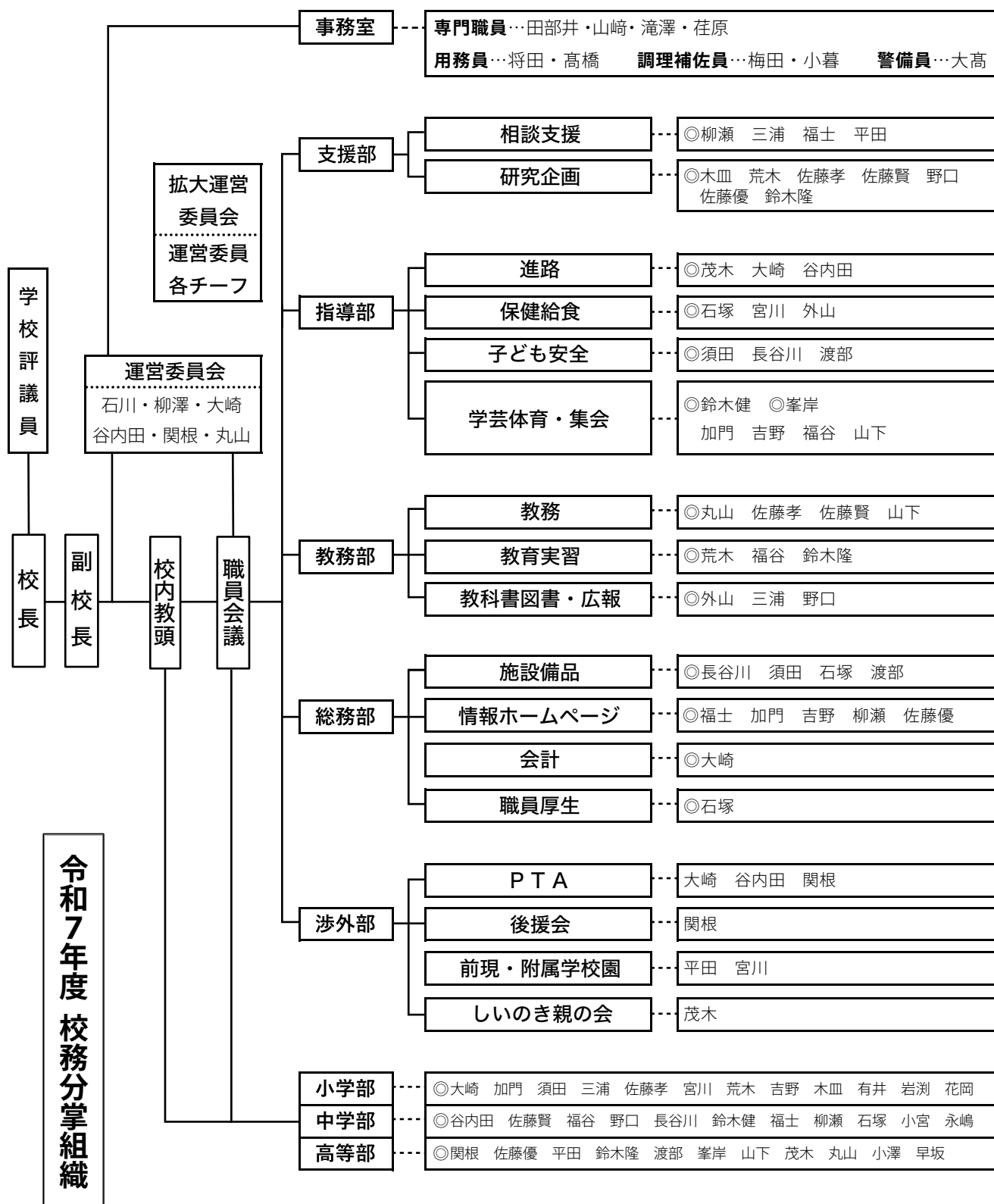
非 常 勤 講 師	小学部	有 井 晴 美
		岩 渕 睦
		花 岡 悠
	中学部	小 宮 友 里
		永 嶋 麻 紀 子
	高等部	小 澤 木 綿 子
		早 坂 真 琴

事 務 室 等	事務主任	田 部 井 直 美
	事務補佐員	荏 原 三 枝 子
	事務補佐員	滝 澤 重 矢 子
	事務補佐員	山 崎 早 苗
	用務員	将 田 紀 子
	用務員	高 橋 憲 司
	給食室	梅 田 尚 子
	給食室	小 暮 美 加
	警備員	大 高 治

育児休暇	岩 瀬 由 莉
------	---------

校 医	内 科	星 野 真 二 郎
	耳鼻咽喉科	荒 木 洋 子
	歯 科	山 田 徹
	歯 科	栗 原 道 恵
	眼 科	滝 本 正 子
	整 形 外 科	岡 野 良 知
	精 神 科	佐 藤 順 恒
	薬 剤 師	浅 見 千 嘉 代

2 校務分掌



校内支援委員会
いじめ防止対策委員会
倫理確立委員会
学校保健委員会
学校安全委員会
特別委員会（教育課程検討委員会）

VII 研 究

1 研究活動の歩み

- 昭和47年～ (各学年のテーマ)
- 昭和50年～ 子どもたちの発達を促す指導をめざして
—実態把握の重要性とその方法・実際(その1)(その2)—
—課題に応じた学習活動・経験の組織化と指導の実際(その1)(その2)—
—教育課程編成の方法と実際—
- 昭和55年～ (5年間の研究の集約・整理)
- 昭和56年～ 生活経験を広めるために、楽しく生き生きと学習できる放送教育をすすめよう
(第33回放送教育研究会全国大会)
- 昭和58年～ 一人ひとりのもてる力を最大限に発現させる指導方法の探究
- 昭和61年～ 主体的に生活する力の育成をめざして
- 平成元年～ 子ども主体の学校生活づくりをめざして
—学校行事の見直しとより有効な指導計画の作成—
- 平成4年～ 将来の充実した社会生活を目指した教育課程の再編成
—小・中・高、12ヵ年一貫教育を基本に—
- 平成7年～ (研究テーマを探るための問題の把握と情報収集)
- 平成8年～ 子どもが変わる授業づくり
- 平成11年～ (研究テーマを探るための問題の把握と情報収集)
- 平成12年～ 気づき、自ら取り組み、生活に活かす子をめざして
- 平成15年～ (教員一人一人の授業づくり実践力を高めるための研究年)
- 平成16年～ つながりを大切にした授業づくり
(1年次)「たてのつながり」「よこのつながり」による授業づくりの見直し
(2年次)「よこのつながり」に重点をおいた授業づくり研究
(3年次)個別の教育支援計画を活かした授業づくり
- 平成19年～ すすめよう児童生徒の社会参加～特別支援学校で取り組む指導・支援と教育課程～
- 平成22年～ 知的障害のある児童生徒へのキャリア教育の在り方を探る
～児童生徒の「自己実現」をめざす取り組み～
- 平成25年～ 自分の力を発揮し、生き生きとした姿をめざすキャリア教育の実践
～子どもの将来を見据えた指導を求めて～
- 平成28年～ 一人一人が力を発揮し、活躍する授業づくり
～実態把握からの目標設定と、評価のフィードバックを通して～
- 令和3年 ICTを活用した授業実践研究
～よりよい授業づくりや指導支援を目指して～
- 令和4年～ 児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり
～「各教科等を合わせた指導」における学習評価の研究～

2 本年度の研究活動

- ・研究協議会 令和7年12月13日(土)開催(予定)

VIII 教育実習

1 教育実習

埼玉大学教育学部の特別支援教育専修の学生を中心に、教育学部の計画のもとに教育実習を行う。

- (1) 特別支援教育基礎実習（2日間）：2年生、副免履修者3年生
特別支援学校の教育や実際の指導について講義と参加によって学ぶ。
- (2) 特別支援教育応用実習Ⅰ（4週間）：3年生
特別支援教育応用実習Ⅱ（2週間）：副免履修者4年生
実際の指導を通して特別支援教育に必要な基本的な授業の実践等の力量をつける。

2 介護等体験実習

小・中学校の教員免許を取得希望する学生（2年生）を対象に、介護等体験（2日間）を受け入れている。

3 その他 教育学部・教職大学院との連携協力

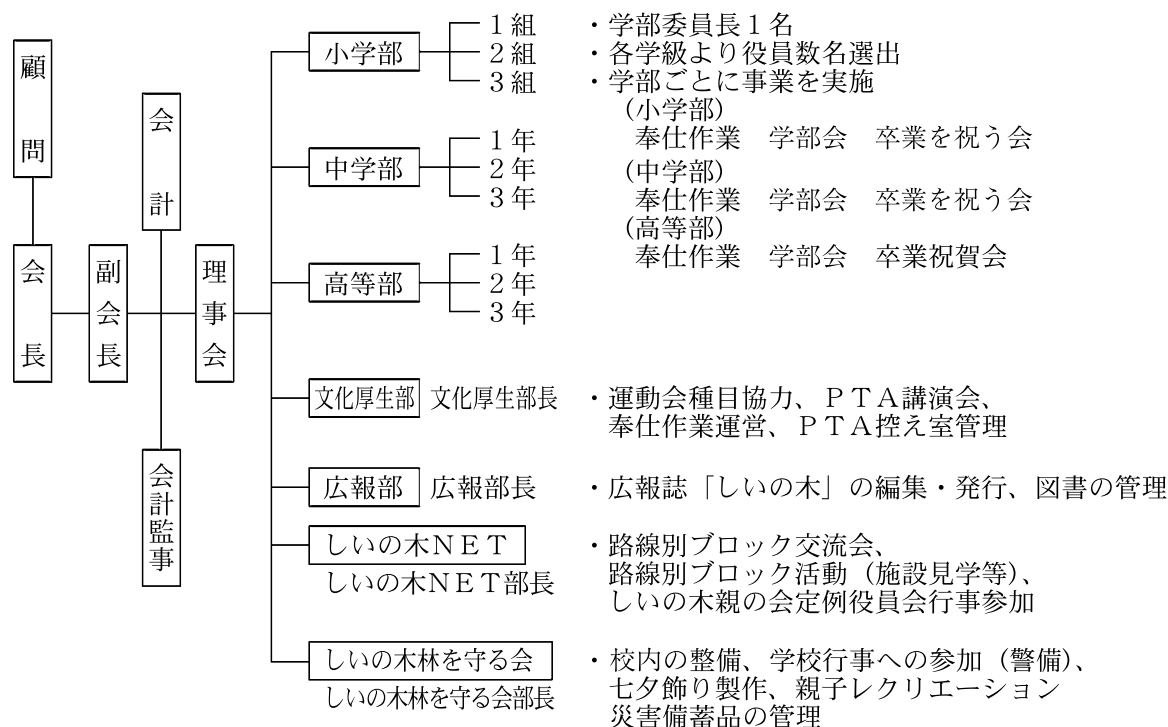
大学・大学院の授業協力、学生・院生の研究に関する協力、年間を通した学生の受け入れ、教職大学院の実地研究の受け入れ等を行っている。

IX P T A 活動

1 P T Aの目的

- ① 児童生徒がよりよい家庭生活・社会生活を送れるよう障害児に対する理解を深め社会にも働きかけること。
- ② 保護者と教員の協力のもとに、児童生徒がよりよい教育環境に恵まれるよう努力すること。
- ③ 会員の教養を高め、相互の親睦を図ること。

2 P T A組織及び主な事業



X 入学選考

1 入学選考の日程について

本校は教育学部の附属学校であるため選考により入学者を確定している。入学選考に関する日程は以下の通りである。

- 入学募集の公示日……………令和7年7月1日(火)
○入学選考説明会……………令和7年7月17日(木)、8月25日(月)

* 入学選考についての詳細は、7月1日公示の募集要項を参照。

2 入学希望者の相談

入学希望者には、本校の様子を見学後、受検を含めた就学に関する相談を随時行っている。また、見学の機会として、5・6月と12月に学校公開日を設けている。

学校公開の期日……前期①令和7年5月13日(火)、②令和7年6月6日(金)、③令和7年6月21日(土)
後期 令和7年12月5日(金)

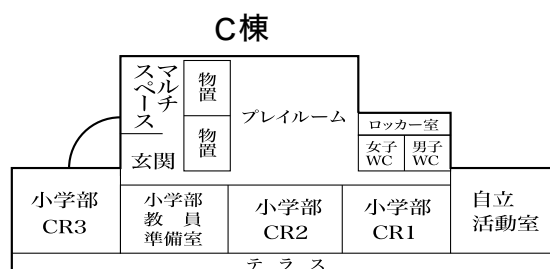
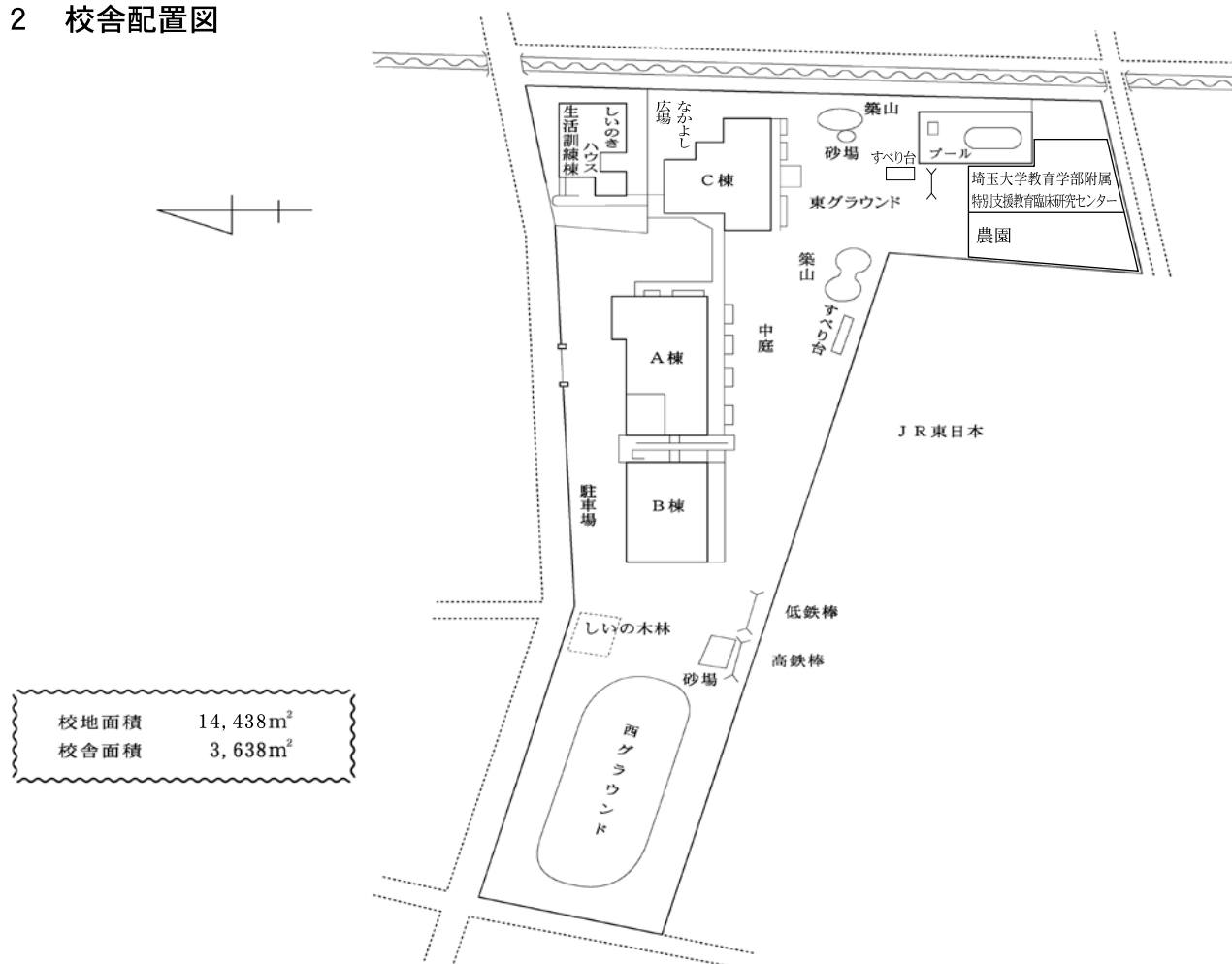
XI 施設等

1 交通案内図



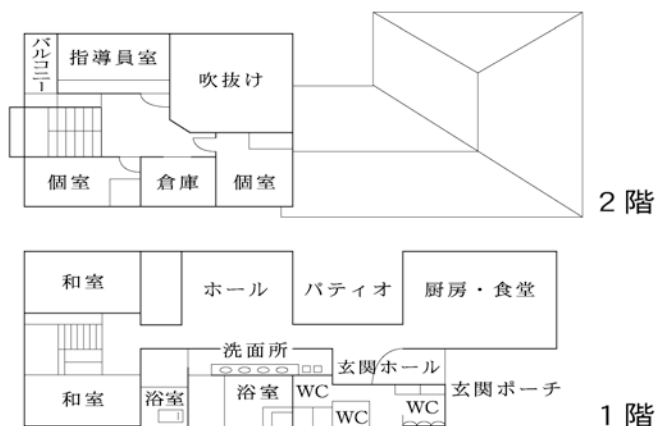
J R 越線利用の場合	日進駅南口下車徒歩15分
ニューシャトル利用の場合	鉄道博物館（大成）駅より徒歩20分
自家用車利用の場合	国道17号線「大成四丁目」交差点を西に入る

2 校舎配置図



3 日常生活訓練棟「しいのきハウス」

子供たちが建物の名前をすぐ覚え大切に使えるように、本校のシンボルの存在である「しいの木林」にちなんで「しいのきハウス」と名付けた。主に各学級毎に行う宿泊学習や調理学習をはじめ生活面の自立をめざした学習に使用している。



4 教育学部附属特別支援教育臨床研究センター(本校併設)



埼玉大学教育学部附属 特別支援教育臨床研究センター

埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センターは、平成28年度より、教育学部附属のセンターとして、スタートしました。埼玉大学と連携し、特別支援教育に携わる機関とのネットワークを活かし、特別支援教育の推進に向け、様々な取組を行っています。

特別支援教育に関することならどんなことでもお気軽にご相談ください。
専門のスタッフが対応します。(埼玉大学教育学部・専門相談員・本校教員)
スタッフと一緒に考えていきましょう。

電話または来室によるご相談も承ります

学校等への巡回相談も承ります

申込先 TEL 048-654-0961



し い の 木 林